

静岡・東中館跡

ひがしなかやかた



(掛川)

菅ヶ谷川（萩間川支流）を渡る直前を右折して三〇〇mほど東進した道沿いに所在する。

金谷線を約二・五km北進し、菅ヶ谷川（萩間川支流）を渡る直前を右折して三〇〇mほど東進した道沿いに所在する。

（内田氏居館跡）と同形態である。館主は平安後期から鎌倉初期にかけて相良荘を支配した相良氏をおいて考えられない。相良氏は藤原南家の出と伝え、周頼より頼景まで五代が一二世紀に相良荘に在住し、後を嗣いだ長頼が一二世紀終末に平家没官領を得て肥後国に転住した。

館跡の北側から西側にかけて土塁が残存し、堀跡も北側に細い水田として残っているが、他は道路や建造物のために失われている。周辺の市街化現象の中で西側土塁の西半も破壊され、廃滅の危機に瀕していることと、町史編纂事業の中でこの居館跡の調査の必要性が指摘されたことから、町教育委員会によって部分的な発掘が伴う考古学的調査が計画された。

調査の結果、平安末から鎌倉初期に至る遠州地方における重要な豪族の居館跡であることが判明した。

出土遺物には須恵器・土師器・陶磁器・木簡などがある。木簡は居館跡の北側の堀跡（第二トレンチ内で幅約7m）内の灰黒色粘質土層中より一点出土しており、伴出の土師器は伊豆の北条氏館跡や願成院（北条時政建立）などの出土品とほぼ共通し、一二世紀から一二世紀初頭頃のものと考えられ、須恵器や山茶椀・常滑焼などもほぼ同時期のものである。特に小皿は願成就院・智満寺（島田市・旧遠江国榛原郡地内）・旗指古窯跡（同）出土のものと類似している。

- 1 所在地 静岡県榛原郡相良町大江字箱瀬
- 2 調査期間 一九九二年（平4）七月・九月
- 3 発掘機関 相良町教育委員会・加藤学園考古学研究所
- 4 調査担当者 小野真一（加藤学園考古学研究所）
- 5 遺跡の種類 居館跡
- 6 遺跡の年代 一二世紀～一三世紀初頭
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

相良町は、駿河湾西岸において大井川から御前崎に至る内湾状の海岸線の中央部南半に位置する。東中館跡は、市街地より県道相良金谷線を約二・五km北進し、

8 木簡の积文・内容

(1) 「
□□□年□□□大治年□
□□□□□
天□天□惣□鄉内国□

□□天□□□□□遺□□
□□□□四月九日□□
□□□□井道□

(251)×(141)×6 081

下部が欠損しており、また判読し得ない部分が多く全体の文意は
わからないが、右下に「大治年□」(一一一六カ~一一三一)とあり、一
一世紀前半以降の年代が与えられる。

9 関係文献

相良町教育委員会『相良町東中館跡』(一九九三年)

(小野真一)

